

令和3年度「日本遺産 (Japan Heritage)」候補地域認定概要

① 北海道 (◎小樽市)

※◎印は代表自治体 (以下同)

◎北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～」

かつて小林多喜二は、明治以降に、港と鉄道の大動脈により発展していく小樽を北海道の『心臓』と表しました。北日本随一の商都に発展した小樽は、未来を夢見た人々や財を成した資本家の「民の力」でまちをつくりあげてきました。

高度経済成長期に衰退する小樽に、荒廃した運河を埋め立てて道路にする計画がつけられます。失われていく「まちの記憶」を守るために新たに動き出す「民の力」。「小樽運河保存運動」を契機に歴史的遺産をまちづくり観光に活用・再生につなげ、日本のまちづくり運動の先駆けとなった小樽市民の物語です。



【小樽雪あかりの路】

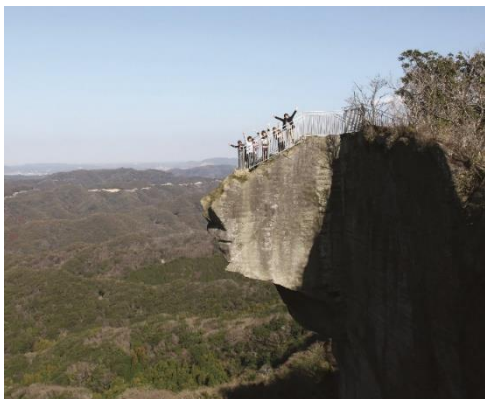


【日本銀行旧小樽支店】

② 千葉県 (◎富津市, 鋸南町)

◎天空の岩山が生んだ信仰と産業 ～房州石の山・名勝地鋸山は自然と歴史のミュージアム～」

東京湾口に面した富津市と鋸南町にまたがる山は、境界となるその稜線の姿から鋸山と呼ばれる。ロープウェーで山頂に向かうと、巨大な直壁とそこに掘りこまれた大空間の連なりが迫ってくる。降り立つとまるで異郷に迷い込んだかのような、そこは石切場だったのだ。そして、山頂の崖っぷちからの身震いするほどスリリングな絶景。緑に覆われた北麓には一連の採石産業遺構が、南麓には巨大な磨崖仏や奇岩に配された羅漢石像群を擁する古刹の境内が広がる。日本の近代化を基礎から支えた房州石の山は、自然と歴史、聖俗を融合した、石と芸術の博物館なのだ。



【地獄のぞき】



【千五百羅漢】

③ 京都府 (◎京都市)

《おもてなし文化～受け継がれゆく京の花街～》

多くの寺社が集まる千年の都・京都には、全国から訪れる参詣者などの観光客にお茶や菓子を出す店「お茶屋」が門前に現れ、やがて、料理とともに芸妓舞妓の舞や三味線で客をもてなすようになり、お茶屋の集まる地域は、一つのまち「花街」に発展していく。花街のおもてなしは、京料理等の食文化を育み、西陣織や京友禅等のものづくりを支え、京舞等の伝統伎芸を洗練させていくなど、京都の文化の継承発展に欠かせない精神文化として受け継がれていく。京都の花街は、歴史的なまちなみや四季折々の伝統行事とともに、芸妓舞妓の伎芸、お茶屋のおもてなし、食文化、匠の技など、悠久の京都が培ってきた伝統文化とものづくりの魅力を私たちに感じさせる。



【五花街合同公演】



【祇園新橋重要伝統的建造物群保存地区】